

『写真で見える銚子』

利根川は銚子に

何をもたらしたのか

伊勢崎 翼

今回は、銚子だった「入口は灯台、出口は利根川」でまとめました。皆さんがガイドをする際、参考になれば幸いです。

1、写真の説明

写真は時代の節目を意識して配列、犬吠埼灯台を近代日本スタートのシンボルと捉え、「なぜ、犬吠埼灯台は作られたのか」と発問。

慶応2年、英米仏蘭と結んだ江戸条約により建設を約束した8カ所の灯台、更に犬吠埼灯台建設と続きます。

灯台の名称と位置を、地図図から確認。
一ノ島灯台では、日本三大海難難所と言われた「阿波の鳴門、銚子の川口、伊良湖渡合」を日本地図から確認。

川口神社(齒櫛・白紙明神)では、仏教説話「銚子娘

道成寺」と伝説「アザ取りの白粉」の一節を説明、

渡辺華山作『常陸波崎より銚子を見る』を紹介。

美加保丸遭難については、幕末・維新の内戦『銚子の戊辰戦争』に触れ、黒生海岸で難破沈没、墓碑の正面「南無阿弥陀仏」二品親王書の解釈。

2、粟島台遺跡と

銚子の農業

琥珀の攻玉遺跡で粟島台人が、犬吠埼中生代白亜紀の露出した地層から出た琥珀を加工の可能性にも触れました。

3、銚子の漁業

江戸時代「深川に最初に成立した銚子場」および「銚子支配の変遷」の説明。外川・海鹿島・黒生漁港の築港を時系列で追い、狙った魚は何か、『大漁節』の歌詞から鰯漁に賭けた漁業の街銚子を紹介。

4、「利根川は銚子に何をもたらしたのか」、銚子の評価

徳川家康から始まる「利根川東遷事業60年」と赤松宗旦の『利根川図志』より銚子の変貌を検証。

銚子は江戸最大の衛星都市、飯沼観音前町、観光で繁栄、明治から昭和時代には「銚子漁港整備の生みの親」濱口吉兵衛ヒゲタ醬油社長の尽力により事業開始、昭和46年運河大漁港が整備されました。

伊勢崎先生の

講演を聞いて

向後和子

一昨年、『全国大会を前にして、「利根川図志」の

赤松宗旦旧居跡、木下河岸吉岡まらちど博物館、木下貝層を見学しました。高瀬舟の模型や設計図を見て見事な舟だと感心しました。また、木下河岸の繁栄の様子も知りました。講演で「徳川家康の利根川東遷の恩恵で、銚子は

江戸時代、大変繁栄しました」をお聞きし、木下の繁栄を思い出していました。

ところで、私は高校卒業後、醬油醸造会社(ヒゲタ)に就職しましたが、入社後すぐに研修があり、醬油醸造の工程や会社の歴史を学んだことがあります。今回の講演で、田中玄蕃や濱口吉兵衛のお話を聞き、銚子に大変貢献したこととを改めて知り、自分のことのように誇らしく思いました。

最後に、利根川沿いに住む者として、江戸時代にタイムスリップして高瀬舟がゆうゆうと行き来する姿を見てみたいと思いました。



伊勢崎先生 講演会風景

市民の会 ニュース & HP

現状と課題

市民の会 ニュース

1号は2022年1月、千葉科学大学の安藤先生により発刊、記事内容は…大学での勉強会のお知らせなど。その後、藤身会員が80号まで一人で編集を担当。

現状：編集委員3名、概ね3ヶ月毎に発行、作業は原稿集め、割付、校正、印刷、配布まで。

課題：寄稿の依頼、内容の刷新、編集委員の増員。

市民の会ホームページ

HPの管理運営は当初より伊藤小糸会員が担当、2019年8月より休眠状態に、2020年11月、再開について相談を受け2020年2月より新規にHP作成を開始、4月評価版を、6月ドメインを取得、新生「市民の会HP」を公開し現在に至る。

現状：委員1名、取材(原稿作成)アップまで、HPの維持管理のすべてを行う。

俳句と川柳

春の海

沖ゆく船と 君ヶ浜

石嶋博行

春そこに

カナダカモメの 姿観る

出口 節

犬吠に

どこからきたのか

春の潮

崖地の植物は長かった冬の眠りからまだ覚めておりません。一足先に春の朝がここ犬吠埼に、保立得造

委員の負担は大きい。維持経費はプロバイダー費のみ会で負担。

課題：①HPの後継者問題。

現状のままでは存続困難か。②比較的ハードルの低いSNSへの移行もありか。

③推進協に立派なHPがある。会としての必要性は。

最終的に「なるようになる」のだが、皆で考える必要はないか。(宮内 敏)